

令和4年 飯田市教育委員会9月定例会会議録

令和4年9月16日（金） 午後3時00分開会

【出席委員】

教育長	熊谷 邦千加
教育長職務代理者	北澤 正光
教育委員	三浦 弥生
教育委員	上河内 陽子
教育委員	野澤 稔弘

【出席職員】

参与	松下 徹
学校教育課長	桑原 隆
学校教育専門幹	今井 栄浩
生涯学習・スポーツ課長	伊藤 弘
文化財保護活用課長	宮下 利彦
市公民館副館長	秦野 高彦
文化会館館長	下井 善彦
中央図書館長	瀧本 明子
美術博物館副館長兼歴史研究所副所長	牧内 功
学校教育課長補佐兼教育企画係長	代田 暢志
学校教育課教育支援係長	麦島 隆
学校教育課教育指導専門主査	木下 耕一
学校教育課長補佐兼総務係長	櫻井 英人

日程第1 開 会

○教育長（熊谷邦千加） それでは時間になりましたので、令和4年9月定例会を始めます。よろしくお願ひいたします。

日程第2 会期の決定

○教育長（熊谷邦千加） 日程第2、会期の決定。9月定例会の会期を本日1日とさせていただきますが、よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） はい、お認めいただきありがとうございます。

日程第3 会議録署名委員の指名

○教育長（熊谷邦千加） 日程第3、会議録の署名委員の指名、会議録署名委員を北澤正光教育長職務代理者をお願いをしたいと思いますのですが、よろしいでしょうか。

◇教育長職務代理者（北澤正光） はい。

○教育長（熊谷邦千加） はい、よろしくお願ひします。

日程第4 会議録の承認

○教育長（熊谷邦千加） 日程第4、会議録の承認、8月定例会の会議録をご確認ください。

何かご意見があればお願ひいたします。

（「特にございません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） はい、承認いただいたということで進めさせていただきます。

日程第5 教育長報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 日程第5、教育長報告事項。

別紙をご覧ください。1から2、3と伊那谷民俗研究集会、伊那谷研究団体研究協議会総会、それから飯田市地域史研究集会に参加をさせていただきました。3つ目の地域史研究集会は、オンライン開催でしたので、オンラインで講演等をお聞きいたしました。

1番の伊那谷民俗研究集会のほうでは、「民俗と食文化」ということで、いろいろ興味深いものがたくさんあったんですが、「伊那郡郷村鑑」に、今の市田柿として有名になるものになるような物で、「甘い白い粉を自ら吹き出した不思議の甘味なり」というのが書いてあ

ったってということで、面白いなあと思って見させていただき、長野県立大の教授のお話で、これは私もテレビで見たことがあったんですが、塩丸イカ、煮イカっていうのは、長野県の独自の文化と言うことです。最近私も食べなくなりましたが、子どもの頃はよくキュウリと塩イカを和えて食べるっていうのがあったんですが、「それはもう他県ではほとんどないんだ」というような話がありました。あとはジオパークの坂本先生の話なんかもあって興味深く聞いてまいりました。

4つ目のところでは、北田遺跡の縄文時代の復元家屋竣工お披露目会というのがありました。一番は地域の方たちがずっと毎月この中で火を焚いて会をやったり、いろんな活用をしていただいているので、20年という年数がたっている割にはとても保存状態がいいというようなことで、宮下課長から報告がありました。非常に上久堅地区が大事にされているんだなあっていうことを感じた次第であります。

それから春草かるたというのをそれぞれ教育委員さんの机に置きましたが、橋北地区の皆さんがこれをつくられて、中に紙があって、いわれが書いてあるのでまたご覧いただければと思います。絵は、佐藤市長さんの高校の同年生の方が描かれて、そして読み札のほうは全国から応募があってその中から選んでいます。応募があったのは101名の方から695点の作品が寄せられて、その中から45点選んだということでありました。

長野県の元気づくり支援金を使って作ったので、本当は各学校に配りたかったんだけど、広くそういう散財するみたいな形はだめで、その地区の元気づくりに使うような形でなければならないという規定があるとのこと。各学校には配れないけれども、せめて教育委員さんにはぜひお渡しをいただいて、何かしらの形でご活用いただきたいということでありました。またご覧をいただければと思います。

それから、6つ目ですけれども、先日飯田市議会の一般質問が行われました。まだ議会は開会中ですが、原知世議員からはスポーツ関係、特にスポーツ施設に関わって照明のことであるとか、あるいはトイレのことであるとか、あるいは芝生のこと、そういったことについてご質問いただきました。

古川議員からは、この今、話題になっている旧統一教会の後援のこと。それから、平和記念館の展示のことがご質問ありました。

岡田議員さんからは、ジェンダーフリーのことに関わって、中学校の制服というようなこと。それから部活動の地域移行に関わってソーシャルビジネスに関わってのご質問。

4番目の宮脇議員さんは、がん教育に関わってのご質問。

5番目の市瀬議員さんからは、ムトスぷらざの各部屋の利用率、特に調理室とか音楽室

ですね。

6番目の佐々木議員さんからは、「自分らしさ」とかジェンダー・多様性を学ぶための対話の場というようなことで学校教育、社会教育でできることはどんなことなのかということでご質問いただきました。

7番目の関島議員は、有機農業の有機給食への取組ということでご質問ご意見をいただきました。

質問のほんの一部を取り出したものですので、また詳しいものは出るかと思っておりますので、ご覧をいただければと思います。

報告事項は以上でございます。

日程第6 議案審議（2件）

○教育長（熊谷邦千加） それでは日程第6へまいりたいと思います。議案審議、本日は2つの議案についてご審議をいただきます。

議案第52号 令和4年度飯田市就学援助費支給対象者（要保護及び準要保護児童生徒援助費補助金関係）の認定について

○教育長（熊谷邦千加） 議案第52号、「令和4年度飯田市就学援助費支給対象者（要保護及び準要保護児童生徒援助費補助金関係）の認定」につきまして。

桑原課長。

◎学校教育課長（桑原 隆） それでは議案第52号、「令和4年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について」お願いをいたします。

認定対象者は、別紙でご用意をさせていただいたとおりでございます。

それぞれ記載をいたしました認定要件にてご認定くださいますようご提案申し上げます。

よろしく願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ただいま説明がありました議案第52号につきまして、ご審議をいただきます。

ご質問、ご意見がありましたらお願いします。

（「ございません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） はい、それでは議案第52号について、承認ということでよろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

議案第 53 号 飯田市教育功労表彰者の決定について

○教育長（熊谷邦千加） 続いて、議案第 53 号、「飯田市教育功労表彰者の決定について」。

伊藤課長。

◎生涯学習・スポーツ課長（伊藤 弘） それでは議案第 53 号、「飯田市教育功労表彰者の決定について」をお願いいたします。

資料 5 ページでございます。飯田市の教育功労表彰規程第 3 条の規定に基づきまして、教育功労者を決定したいとするものでございます。

1 に記載の方につきましては、表彰規程の別表 I に基づく功労者ということでございますが、社会教育機関の関係課が所管いたしますそれぞれの委員等を長くお務めいただいた方でございます。

氏名、住所、功労内容につきましては、議案書に記載のとおりでございますが、文化財審議委員が 1 名、美術博物館評議員が 4 名、美術博物館協議会委員が 3 名、合わせて 8 名でございます。

2 に記載になります者は、表彰規程別表 II に基づく教育功労者ということで、飯田市の教育、文化、芸術等の振興のためにご寄附をいただいた方でございます。2 団体でございまして、住所、氏名、功労内容については記載のとおりでございます。

伊賀良まちづくり協議会につきましては、伊賀良小学校へ版画等のご寄附を、2 つ目のコシブ精密様につきましては、上村小学校、和田小学校の社会見学に併せてそれぞれ顕微鏡 1 台ずつのご寄附をいただいたものでございます。

それぞれ関係する課、館から推薦がありまして、表彰規程の基準を満たしているということでご決定いただければと思います。

よろしく願いをいたします。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ただいま説明のありました議案第 53 号につきまして、ご審議をいただきます。

ご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

（「ございません」の声あり）

○教育長（熊谷邦千加） はい、それでは承認をいただいたということで、ありがとうございます。

日程第7 協議事項

○教育長（熊谷邦千加） 続いて日程第7、「協議事項」。

（1）少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組について

○教育長（熊谷邦千加） （1）「少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組について」。

代田課長補佐。

◎学校教育課長補佐兼教育企画係長（代田暢志） はい、お願いします。

協議事項の（1）少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組につきまして、令和4年度下半期のスケジュールについて説明をさせていただきたいと思います。

資料につきましては、資料No.1-1、それから1-2を用意しております。

まず1-1からご覧いただきたいと思います。6ページとなります。

下半期の取組につきましては、8月の教育委員会の定例会で第1回取組研究会での協議内容につきまして報告をさせていただき、教育委員の皆様のご意見をいただきましたので、今回、全体のスケジュールという形でまとめさせていただきました。

まず、1といたしまして、教育委員会情報誌「H a g u」の発行につきまして、学校を取巻く様々な課題について、保護者や児童生徒に理解していただくことを目的に、少子化や施設の老朽化、教員の減少といった学校と子どもたちを取巻く現状や課題、また影響、より良い教育環境に向けた今から検討することの重要性や今後の進め方、これに加えてアンケート調査への協力依頼等を掲載し、メッセージ性の高い情報を発信したいと計画しておるところであります。

発行の時期につきましては、令和4年11月末にアンケート調査に併せて発行を予定しております。

また、この「H a g u」は、保護者会の懇談会や、学年集会等でも活用できるように、また第2項にありますアンケート調査の実施の際に「H a g u」を読んだ感想としても活用できるようにしたいと考えておるところであります。

続いて2のアンケート調査について、学校の特色や魅力、教育課題、学校の配置・枠組みに係る保護者等の意見を広く求めることを目的にアンケート調査を実施します。

調査方法につきましては、スマホやパソコンによる調査を基本といたしまして、紙の回答や多言語にも対応させていただきたいと思っております。

調査対象は、児童生徒の保護者やこれから学校に通うこととなる、保育園に通う園児の

保護者、小学校高学年及び中学生を対象といたします。

アンケートの内容につきましては、前回、アンケートの素案をお示しさせていただきましたが、これに修正を加えており、学校の特色や魅力、また先ほどの「H a g u」の感想をもとにいたしまして、飯田らしいこれからの学校づくりに関する意見の回答をいただくような設問も考えておるところであります。

アンケートの実施時期につきましては、令和4年 11 月末から 12 月とし、回答後は学校種、小学校中学校別や地区、また中学校区での集計を行う予定であります。

このアンケートの集計結果につきましては、第3回の研究会で研究チームによる研究結果と併せて報告をさせていただく予定であります。

続いて、3番目のオンラインミーティングの開催について。

あり方検討の取組について、校長会や臨時の学校運営協議会などで検討の目的、進め方、方針案、決定までのプロセス等の説明をさせていただいておりますが、今後の取組においても、共通理解を図ることを目的に、校長・教頭先生を対象に教育委員会とのミーティングを開催いたします。また、各校においては、このミーティングでの対応を校内に波及させていただき、あり方検討についての教職員の理解をさらに深めることも目的としております。

実施の方法や出席者、ミーティングの内容については、記載のとおりですが、詳細につきましては、今月に開催する第3回の校長会で開催の依頼を予定しております。

実施時期につきましては、中学校のスケジュール調整をいただき、10月から12月の開催を予定しておるところであります。

続きまして、4番目の項目になります。

事務局研究チームにおける配置・枠組みについての研究につきましては、今年度当初から取組を行うとしていた研究であります。昨年度、学校運営協議会で意見交換された配置・枠組みのことについて、各種研究報告書や、先行的な取組事例の調査検討、有識者からのアドバイス等をいただきながら、研究を重ね、飯田らしいこれからの学校づくりのための配置・枠組みの研究を進めているところであります。

研究内容等は記載のとおりですが、この研究チームの成果として、第3回目の研究会で学校運営協議会での意見交換の様子、それからアンケート調査の報告と併せて、飯田らしいこれからの学校づくりの方策を報告したいと考えておるところであります。

8ページ、資料No.の1-2につきましては、先ほどの「H a g u」の発行から事務局研究チームによる配置・枠組みの研究までの4項目についてまとめさせていただきました。

あわせて、あり方研究会を含めた令和4度の下半期全体スケジュールを時系列でまとめさせていただきますので、参考にご覧いただきたいと思います。

以上で説明を終了いたします。

よろしく申し上げます。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ただいま説明がありました件につきまして、ご協議をいただきます。

ご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。

はい、上河内委員さん。

◇教育委員（上河内陽子） 分かりやすい説明、ありがとうございます。

アンケート調査については、スマホやパソコンによる調査ということで、今、親御さんたちもとてもそのほうがやりやすいと思いますし、集計のほうもきっと素早くいろいろ細かく分析できるのでいいかなというふうに思います。

このアンケート調査を実施した後に、スケジュールを見てみますと、回答をして集計した後に第3回研究会で報告というのがあるんですけども、例えばその結果というものは、おそらくそのアンケート内容がとても分かりやすく、そして答えやすいものであればと思います。また、そういった「これはどういう結果になるのだろう」ということで、保護者の皆さんも多分注目すると思うんです。なので、例えば今後「H a g u」でまたその結果を報告しますというような一文があったらいいなと思います。もしフィードバックの時期が言えないのであっても、「H a g u」でまた結果を報告するか、別途何かで報告するというような一文があると、この保護者たちも自分が回答したアンケートを通して、それを考える機会をもらえて、フィードバック見ながらもう一度考えることができるというか、参加しているというような気持ちになれるかと思います。そういった点をお願いできればなと思いますが、いかがでしょうか。

○教育長（熊谷邦千加） 代田課長補佐。

◎学校教育課長補佐兼教育企画係長（代田暢志） アンケート調査につきましては、今回とりあえず第1回のアンケートをとりたいということということで、実施をさせていただきたいと思います。

内容を大体細かく詰めながら2回目・3回目というふうに多分進んでいくんじゃないかなというふうに考えておるところなんですけど、今、ご意見いただきましたとおり、保護者についても分かりやすい、こういったところに生かされているのかということ非常に深い意味がある部分でありますので、そんなところを示していけたらというふうに考えて

おります。参考にさせていただきます。

◇教育委員（上河内陽子）　お願いします。

○教育長（熊谷邦千加）　ほか、いかがでしょうか。

北澤正光教育長職務代理者。

◇教育長職務代理者（北澤正光）　非常に丁寧に、今までの研究会等で出された意見を受け止めていただいて、具体的な方向を示していただいているありがたいと思います。1つ質問です。「H a g u」の配布範囲についてお聞きします。どの範囲に「H a g u」が配布されていくのかお聞きするのは、2番のアンケートのところで、調査対象が小中学校の児童生徒の保護者、その次のところには今までの意見を受け止めてくださった結果だと思うのですが、保育園等に通う園児の保護者となっています。「H a g u」は今までも保育園の保護者は配布対象でしたか。その辺が定かじゃないので教えてください。

○教育長（熊谷邦千加）　はい、代田課長補佐。

◎学校教育課長補佐兼教育企画係長（代田暢志）　今までの「H a g u」につきましては、小学校、中学校の保護者宛ということで7,000部用意させていただきました。今回、この「H a g u」につきましては、保育園の保護者にも読んでいただきたいということで、プラス1,000部を用意すると保育園・幼稚園の保護者まで行き渡るということです。その分を用意して配布させていただきます。

◇教育長職務代理者（北澤正光）　分かりました。

○教育長（熊谷邦千加）　さらにいかがでしょうか。

◇教育長職務代理者（北澤正光）　追加の作業になるかと思いますが、保育園の保護者の皆さんのところには、この「H a g u」の配布意図というか協力依頼も含めて若干の説明が必要になるのではないのでしょうか。保育園の園長さんにもということになると思うのですが。

これまでこの研究会に出席してきて、保育園の保護者の代表の方のご発言を聞いていると、「どうして保育園の立場のものに先の学校の話を開いてくるのか」といった趣旨のことをおっしゃっていた方がけっこういる。要するに「小中学校の話なんで今、該当していない自分たちのところに向けてくるのですか」みたいなことを発言された方もいたし、「そんな先のことを急に聞かれても分からない」といった発言をされていた方もいました。本当は一番該当する皆さんだと思います。将来的にお子さんが該当する世代の皆さんなので、その辺のことをなぜ保育園の保護者にもこの状況を知ってほしいのか、アンケートをとるのかというところの丁寧な説明が必要になるのではないかと思います。

○教育長（熊谷邦千加）　代田課長補佐。

◎学校教育課長補佐兼教育企画係長（代田暢志） 保育園の配布につきましては、また分かりやすいように文を変えて「H a g u」の説明、それからアンケートをとらせていただきたいという趣旨を含めて説明のほうをさせていただきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○教育長（熊谷邦千加） ほか、いかがでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） また途中でもこれからこの話題については、協議いただいたりいろいろしますので、引続きご意見いただければなと思います。

ありがとうございました。

日程第8 陳情審議

○教育長（熊谷邦千加） それでは日程第8、陳情審議であります。今回はございません。

日程第9 その他

○教育長（熊谷邦千加） 日程第9、その他。

（1）教育委員報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 「教育委員報告事項」ですが、報告事項ということで、いつも順番を決めてないのですが、ご用意できた方からご発言をお願いします。

はい、では三浦委員さん。

◇教育委員（三浦弥生） はい、ありがとうございます。

南信教育事務所飯田事務所の主幹指導主事滝澤先生の学校訪問帯同をさせていただいております。2校行かせていただきました。

1校は、8月24日に竜丘小学校へ行かせていただいております。

こちらのほうは、面談に同席させていただきましたが、先生方から「人間関係最高です」という言葉が聞かれまして、教職員の先生方の人間関係の良さというものが先生からも伝わってまいりました。

本当にどの先生に滝澤先生がお声がけしてもとても謙虚に言われていて、どの先生もそのほかの先生方の良いところをすごく見ていらっしゃるなあということをお話を聞く中で私も感じることができました。そういった教職員の人間関係の良さが、子どもさんたちが安心して学べる環境をつくっているんだなあというところも併せて感じてきた次第で

す。

また、とても印象に残ったのが、研究主任の先生が本当に前向きに取り組んでいらして、木下紫水先生、自由画教育ということでされていますけれども、その思想といいますか、考え方というところを竜丘小学校の教育に生かすということで、とてもそれを生き生きと語っていただきました。

そういった形で、先生方と子どもたちに分かりやすい「分かった」「できた」という教育をしようという、そういった意気込みも併せて感じております。

また、養護教諭の先生が中国語ができるということで、中国語しかしゃべられない保護者の皆さんたちの相談にも母国語を持って相談に乗っているというようなところもお聞きしておりまして、コミュニケーションもしっかりと取っていただいているなというところを感じております。

ここは学級が1つ少なくなったのでしょうか。そういうことで教員が少なくなったということで、様々な仕事量が減らない中でやはり教員が少なくなったというところは、1つ課題ということで聞いてきております。

もう1校は、9月13日に遠山中学校に行かせていただいております。

ここでは本当、校長先生が初めて入られたということで、「いろいろなところをやり過ぎちゃったかな」と言われていましたけれども、意欲的にされていました。

校長先生、教頭先生はもちろんですけれども、一番長くなる教務主任の先生がとても先生方の間に入って上手に学校のコミュニケーションと言いますか、教員関係をととても良くされているなというところを感じました。

若い先生方の授業を見させていただきましたが、とてもいい授業をされておりました。とても子どもたちに分かりやすい授業をされておまして、板書の字がとても綺麗ですし板書もとても綺麗です。子どもたちがノートを取って字を書くといったところも、しっかりされているといった授業を見させていただきました。

校長先生のほうから、「家庭学習の手引きといったものが、言葉が少し古いような気がして」と言い方をされておりましたけれども、「自学ノート」ということで「自分のできない部分をしっかりと学ぶという、そういう形の家庭学習のあり方というものをこの2学期から進めてきています」ということで、新しい風が入ったのかなというところを感じてまいりました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

続いて、いかがでしょうか。では、上河内委員さん。

◇教育委員（上河内陽子） はい。

9月10日・11日は、飯田市の地域史研究集会在満州移民ということで、オンラインで参加をしました。

今回は、加藤陽子先生の講演もあり、今のウクライナの戦争の話から、すごい昔の古代ローマの戦争の話までいろいろ交えながらとても興味深い話をしていただきました。

それで加藤陽子先生の本の中にも書いてあったように、「この飯田下伊那の満州移民の研究を本当に引っ張ってきた方々を尊敬する」というような言葉が加藤陽子先生の本にあったんですが、まさにその引っ張ってきた先生方のお話も同時に聞くことができました。本島和人先生と齊藤俊江さんの話も聞くことができ、2日間に渡ってもう本当1年で一番のお祭りと言ったらおかしいのですが、本当に一大イベントで、ヘトヘトになるくらい密にこうやっていう感じなんです、それがオンラインということで、全国からたくさんの人たち、一番多いときで100以上のZoomへの入場があったかなと思います。

そういった人たちが、飯田下伊那の資料を非常に興味深くいろいろ研究をされていたり資料を見たりということで、注目している人々がいるということがやっぱり対面式であったのには超したことがなかったのですが、オンラインという形でまた違う熱気というものを感じながら、すごい集会だなというふうに改めて感じました。

スタッフの皆様に感謝したいと思います。ありがとうございました。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

続いて報告のある方。はい、北澤委員さん。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 2点ですが、1点は8月24日に、「ジュニア期の望ましいスポーツ活動の在り方研究会」がありました。飯田事務所が主催ですけれど、熊谷教育長さんも会長として市町村教委連の代表として関わっている会です。

コロナの関係でリモートでの実施でしたが、PTAの皆さん、教育委員会関係の皆さん、それからスポーツ団体とか指導者の皆さんが100名くらい参加をされて行われました。

その中で飯田市にも関わってくださっている、講師の筑波大学アスレチック部門の副ディレクターをされている山田晋三准教授から初めのお話とまとめのお話がありました。その中で繰返しのようになるのですが、「小中学生のときに様々な競技を体験することはとても重要で、欧米ではそれが当たり前になっている」ということ。

それからそのお話に引用されたことで、1つはサッカーのスペインリーグのビジャレアルに佐伯夕利子さんというコーチがいる。その方のビデオを流してくれて、その佐伯さん

が盛んに言っていたのは、「休むことの大切さ」ということで、「10 カ月活動して、2 カ月休むというのはとっても大事。実はその休んでいる2 カ月で10 カ月の活動を自分で振り返って、考えを再構築して次に備える期間なのだ」と。「ただ活動し続けているだけでは、自分の活動をインストールしたり見返したりする時間がない。2 カ月くらいはじっくり休んで見返して次の目標を持つという、とても重要な時間なのだ」という話がありました。

それから陸上の400メートルハードルの日本記録を持っている為末 大さんも、ビデオで登場してお話をしてくれましたのですけれど、彼の話のキーワードは「時間の圧縮」ということで、「本当に必要な練習や必要なものを集中的にやるということがとても大事で、時間の長さではない」ということを強調されていました。今後話題になっていく部活動の地域移行といったことを考えたときにも、「この時間を圧縮するっていうことは、とても大事なポイントになる」というお話をされていました。

その後、4人くらいずつでグループワークになったのですが、ちょうど私の入ったグループは緑中のPTA会長さんとか保護者の方が何人かいるグループだったのですけれど、「今日のような話はとっても興味深い」と。「でも、保護者の立場でそういうことを聞く機会がほとんどない」と。「なのでより多くの保護者が、こういう最新のスポーツ科学に基づいたことを学ぶ機会とか知る機会をより多く取っていくことが大事じゃないか」といったことがグループワークで話し合われました。最後のまとめで山田准教授が、「あくまで子どもが主体の活動なのだ」と。「なので子どもの時間を大人や指導者の思いで奪ってはいけない」ということを強調され、「アメリカではこういう活動時間は週20時間までと限られている」と。「しかもその20時間というのは、ミーティングとか体力づくりとかそういうことも含めての20時間なのだ」というようなお話で、いずれにしても飯田市では「冬季ジブン・チャレンジ期間」のような先駆的な取組を既に行っているため、それを浸透させていくことはとても意味のあることだというような話。それから「さっき話したような議論を続けて広めていくことが、これからうんと大事ですよ」とまとめられたのが1つです。

それからもう1つは、8月26日に、これもリモートでしたけれど、小中連携・一貫教育の推進部会が行われて、そこにも参加させてもらいました。

飯田市の小中連携・一貫教育は12年目ということになるわけですが、今回は各中学校校区での今年度の取組の中間発表と今後に向けてといったことを共有しました。いくつかあった中の1つは、コロナ禍で小中の先生が集まって、今までだと公開授業を見て、子どもの様子をお互いに見合うことをしていたのですが、なかなかそれができない。2年間、続いている。今年になって工夫をされて、「生で子どもを見ることは大事だ」と。「ついて

は、一堂に同時期に集まるということはいろいろなマイナス要素があるので、2日間、自由に都合の付く先生が都合のいい時間にその学校へ行って見せてもらう。見てもらうほうは指導案などの用意はせず、とにかく子どもを見てもらうことを中心にして実施した。分散して、なおかつ子どもたちの様子を見ることができて良かった」といった工夫点があったり、「幼保の先生方が小学校へ行って子どもたちを見るといったようなことが大分進んできた」という話があって、例えば保育園の先生が小学校6年生の子どもたちを見て、「保育園のときはこんなふうだったけれど、すごく成長している」というようなことを話してもらって、「小学校の先生方がとても力になった」、「参考になった」という話がありました。

それから「学校によっては、小学校の教室が空いているので、日常的に保育園の子が来て、その部屋を使ってもいいように教室を開放してある」といった話もありました。

それからICTの活用についても、「子どもだけではなく、小学校同士で学年ごとの先生のクラスルームを設置して、先生方も日常的に交流をする、そんな工夫も始めている学校がいくつかある」というようなことが出てきました。

学識経験者として助言いただいている井出先生からは、「言葉にリアリティを感じるようになってきた」と。要するに、「連携一貫を綺麗事に進めて、綺麗事の報告書をまとめて終わりというようなことではなくて、本当に実質的なところで小中の先生がやり取りするという姿が出てきてとてもいい方向だ」ということ。それから「ただ続けるっていただけじゃなくて、見直しをしてやることを絞り込み、止めるものは止めるというふうにしていくこともとても大事だ」というお話もありました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

（2）参与報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして、「参与報告事項」

◎参与（松下 徹） 特にございませぬ。

（3）学校教育課報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして、「学校教育課報告事項」。

麦島係長、お願いします。

◎教育支援係長（麦島 隆） 教育支援係で主に特別支援教育を担当しております麦島と言います。よろしく申し上げます。

資料9ページですけれども、今年度、国立特別支援教育総合研究所にありますインクルーシブ教育推進センターの地域支援事業の指定を受けまして、研究所のアドバイスを受けながら取り組んでおります。

先日8月26日に推進プログラムという形で中間発表をしまいいりまして、そこで9ページからの資料になりますけれども、載せさせていただいております。

今日のこの機会をいただきましたので、短時間ですけれども、ポイントを絞って発表させていただければと思いますのでよろしくお願いします。

まず9ページと10ページのところに、飯田市の特別支援教育がどのような状況なのかということでデータをまとめたものになります。小さくてちょっと見にくいですが、その中から見えてきたこと、課題が10ページの下の方に書かせていただいております。特に、飯田市の場合で言いますと、中学校の自情障学級の在籍数、またLD等通級指導教室を利用している子どもたちが非常に増えているという現状が見えてまいりました。これらのお子さんは、通常学級でも生活する場面が多いということですが、なかなかその通常学級での配慮であるとか、授業の改善があまり十分に行われているとは言えないというところが課題というところで見えてまいりました。

そこで11ページですけれども、この指定事業を受けまして、特別支援教育の担当の先生だけでなく、全職員でこの特別支援教育への理解を深めるというところ。もう1つは、合理的配慮であるとか、通常級と特別支援学級との連携をどうしていくかというようなところで取り組んでまいりました。

11ページの下、まず1つ目ですけれども、これまで個別の教育支援計画という個々に支援の計画を立てるものがあるんですけれども、中学校区でバラバラでしたので、それを飯田市として統一をして、共通理解の中でやっていこうということで今年整備をさせていただいております。

12ページですけれども、学校訪問について書かせていただきました。一学期に3人で学校訪問に行くわけですが、そこでの訪問でのポイントをしっかり確認をしてここに書かせていただいておりますが、訪問してまいりました。

訪問して見えてきた課題のポイントとして、12ページの下に書かせていただいておりますけれども、もう少し細かくはこの冊子の17ページと18ページに書かせていただいておりますので、またお読みいただければと思います。特にというところでは、特別支援学級に在籍しているお子さんでも、なかなか特別支援学級を利用していないということが見えてまいりました。また、通常学級で先ほど言いましたけれども、配慮をして授業をしているか

というところは、ちょっと難しい部分も見えてまいりました。

また、特別支援学級では、その子に応じた支援、自立活動といたしますけれども、それを行うわけですけれども、なかなか難しい状況もあるというところも見えてきました。特に自情障学級や中学校に多いというようなことが、訪問によって見えてまいりました。

13 ページですけれども、これらを受けまして、インクルーシブ教育の推進という視点で今年度研修会を今までに2回行っております。1回目は、堀内澄恵先生という特別支援に長けたOBの先生。2回目は、先ほど言いましたインクルーシブ教育センター長の久保山先生の講演をオンラインですけれども、させていただいております。

14 ページはその内容がありますので、またちょっと小さくて申し訳ないんですけども、参考に見ていただければと思っております。

第3回ですけれど、10月4日と6日に2回に分けてまして、また研修会を予定しているところでもあります。

15 ページですけれども、上半期を終わりました、これまでの取組からの成果としましては、まず個別の教育支援計画を統一したことで、共通認識のもとで支援の方向性を考えていく土台ができたという点。また、合理的配慮について、その支援計画に盛り込むということで、まずはそこは良かったかなというふうに感じております。

あと研修会ですけれども、今まではその参加者に応じてテーマを変えていましたが、今年度はインクルーシブ教育の推進という共通のテーマを設定することで、全職員で目指す方向について意識を持つことができたかなと思っております。

最後ですけれども、まだまだこれからの課題というところで、合理的配慮をどういうふうにしたらいいのということで、お困りの先生が多いということで、それらの理解を進めていく必要があると感じております。

また、特別支援学級では、自立活動を行うわけですけれども、なかなかこの自立活動も具体的にイメージすることができない場合があります。その辺も積極的にできるように力を入れていきたいと思っております。

あと市の研修会をやっているわけですけれども、なかなか校内での研修というところまでいかないというところが課題ですので、その辺も考えていきたいと思っております。これらのことを発表してまいりました。

今日の信毎等でも、その特別支援学級と通常学級の時間の目安みたいなところで結構話題になっているわけですけれども、その時間を目安にするというよりも、インクルーシブ教育の推進のためにまず通常学級での配慮をどうしていくのか、であるとか、特別支援学

級在籍のお子さんがその子に応じた支援がしっかり充実してできるかどうかというところを大切に考えて、今後とも取り組んでまいりたいと思っております。

私からの報告は以上になります。

また今後ともよろしく申し上げます。

○教育長（熊谷邦千加） 続いて木下主査。

◎教育指導専門主査（木下耕一） 外国語教育を担当しております木下と申します。よろしく申し上げます。

資料 19 ページをご覧ください。外国語教育では、英語で「気持ち」や「考え」を伝え合う、ワクワクする授業づくりのために、3つの重点を定めて各校で取り組みを進めてきていただいております。

特に②にあります言語活動というところなのですが、学習指導要領でもその重要性を繰り返し述べられております。これは機械的に繰り返し音読練習をしたり、ノートに単語を羅列して練習するといったいわゆる練習活動とは異なり、自分の「気持ち」や「考え」を英語で伝え合うという学習活動です。この言語活動を通して、実際に使いながら言語を習得していくことを狙いとしております。

上半期の取組を主に3点ご説明いたします。

1つ目は、外国語教育推進委員会の取組です。

各校外国語系の主任の先生が委員となり、研修等に参加されながら、各校での取組、推進、また中学校区での小中連携・一貫教育の推進の中心になっていただいております。

2つ目は、授業支援、研修等です。

小学校では現在、3・4年生が外国語活動、5・6年生が外国語科となり、小学校の4年間で210時間英語の授業を受けるようになりました。このような教育課程になって3年目、まだまだ多くの小学校の先生方が不安の中で授業をしているのが実態です。中学校の先生方も、小学校で4年間学習してきた子どもたちを中学校でどのように指導して力を伸ばしていけばいいのか、大きな課題を抱えています。各学校の環境、児童・生徒の実態、先生方の実態が異なる中で、より良い授業支援ができますよう、全ての学校を訪問しながら授業参観を行ったり研究会等へ参加をしたりしています。一学期に続き二学期も、10月より各学校を回る予定であります。

めくっていただきまして、資料20ページになりますが、3つ目はALTになります。

飯田市では、ALTを10名直接雇用しております。出身が7カ国と、多様な文化背景をもったALTが、小学校と中学校を回りながら、少しでも英語が好きな子どもたちが増え

るようにと頑張っています。また、月1回定例会をもち、そこで情報交換をしたり研修をしたりしながらスキルアップを図っています。

昨年度から始まったALTによる英語のイベント、イングリッシュデイですが、今年度は会場をムトスぶらざに移して実施をいたします。現在は小学生対象のイベントですが、今後、中学生の「ジブン・チャレンジ」等でも開催を検討していきたいと考えています。

後期の取組としましては、学習者用デジタル教科書の活用・推進を1つの柱にと考えています。今年度より実証事業として、全国全ての小学校五・六年生と中学生の端末に学習者用デジタル教科書が配備されました。この実証事業は、来年度も続き、令和6年度には外国語の学習者用デジタル教科書が本格的に導入されることが決定したと、8月に報道がありました。

学習者用デジタル教科書は、教科書の単語や本文を音声化してくれる機能を持つなど、使い方次第で子どもたちの英語力向上につながるものです。ただ、まだ子どもたちも先生方も使い始めたばかりの状況で、さらなる活用を推進していくためには、今後一層の経験を積み重ねていくことが必要です。市としても、研修や支援を充実させていきたいと考えております。

これ以降は、いくつか資料を付けましたので簡単に触れたいと思います。

そちらがALTの今年度のポスターです。各学校にはこの日本語版と英語版を配っております。後ほどお読みください。

その後22ページからは外国語通信ということで、各学校に担当から発信している通信を載せてあります。各学校の取組の重点等を載せてありますのでご覧ください。

28ページ・29ページをご覧ください。一学期に訪問する中で、早速学習者用デジタル教科書を使いながら、授業の中で音読練習をしている場面がありました。今後、小学校の5・6年生や中学生が、このように授業の中でタブレットを使いながら、英語の学習をしていくという姿が増えていくというふうに考えております。

30ページ以降は、後期に向けてどのように学習者用デジタル教科書を活用・推進していくかということについて、見通しと目標、そして研修の計画等を載せてありますので、後ほどお読みいただければと思います。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） 続いて今井専門幹。

◎学校教育専門幹（今井栄浩） それでは、櫻田専門主査が本日いませんので、私から飯田市ICT教育の取組についての上半期の報告をさせていただきます。

35 ページからになります。令和4年度のICT教育の取組の目標ですが、この4月にもご説明しましたが、「深い学びにつながる協働的な学び」を目指した活用の推進ということで、「授業での活用」、それから「学校生活での活用」、「情報活用能力」この3点について進めてまいりました。特に授業での活用は、授業改善につながる協働的な学び、それからデジタル教科書、デジタル教材を使ったもの、そういったところに力を入れてきました。

上半期の取組ですが、授業での活用です。同時共同編集機能を用いた協働的な学びのイメージが持てない教員に向けて、専門主査が学校での職員研修等を行ってまいりました。また、そういった授業ができる指導案型のテンプレートを共有して、一生懸命、今、授業を進めています。

実際には、先生方の活用の度合いに差がある状況があります。よく使っていただける先生、それからまだまだの先生。ですので、まだまだの先生のところをレベルアップしていきながら、より協働的な学びができるように支援をしているという状況です。

36 ページのところに行きます。学習者用デジタル教科書の関係ですが、6月の中核教員研修でどれくらい学習用デジタル教科書の利用が進んでいますかということを確認をさせていただきました。その中で、2校ほどまだセットアップができていない。各学校、中核教員が中心になってセットアップしてもらおうようお願いしていたのですが、まだできていないということが分かりましたので、その日のうちに専門主査が学校に行って、一緒にセットアップをして利用できるようにしてきました。その後、少しずつ利用が進んできている状況です。

全ての教科が入っているわけではないですが、学校に英語ともう1教科という状況ですので、英語を教えている先生、それからもう1教科、社会であったりとか理科であったりとか、学校で決まっていますので、そこに関わる先生たちがどれくらい利用しているかというところ、利用がより進んでいる先生は、その良さを理解してどんどん使っており、逆に利用できていない先生が「まだ分からない」と言っている状況があるので、そこにどんどん手助けをしていきながら進めていこうということで学校訪問を続けています。

38 ページ、学校生活での利用ということですが、先ほどありましたが、飯田市のWi-Fi環境の整備は、普通教室で100%できているんですが、実は大規模校を中心に接続が不安定だという報告があります。その原因を今、調査しながら確実につながるか、途中で切れたりしないような状態をつながるということを生徒調査をしながらきちんと対応を今、進めているというところです。

39 ページ、情報活用能力です。情報モラル講演会を一学期に全ての小中学校で専門家、

南澤先生ですが、行っていただきました。ただ、それだけでOKっていうわけではなくて、今後も情報モラル教育を日常的に進めていこうとしています。40 ページのところですが、情報活用能力に関する内容の取り扱い状況チェック表を作成し、こんなことを気を付けてください、こんなことをやってくださいということで、各学年、状況に応じてチェックをしながら、日常的に情報活用能力の獲得ができていくように進めていくということを取り組んでまいりました。

40 ページ、その他のところですよ。夏休み中に Google for Education の研修を3回行いました。35名の先生方が参加していただきました。

それから今後に向けてですが、飯田市ICT教育の今後のロードマップの作成を行っていきます。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

（４）生涯学習・スポーツ課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続いて「生涯学習・スポーツ課関係報告事項」。

伊藤課長、お願いします。

◎生涯学習・スポーツ課長（伊藤 弘） それでは、続きまして次のページ、42 ページ・43 ページをお願いいたします。

令和4年度のニュースポーツフェスティバルの開催要項がまとまりましたので、日程等をお伝えさせていただきたいと思います。

このニュースポーツ大会につきましては、飯田市のスポーツ推進委員さん中心に計画をさせていただいておりまして、昨年から今年度2年の任期の中で、特にいろんな世代が一緒に参加できる競技ということで「ボッチャ」の普及ということで、今年度のニュースポーツ大会は「ボッチャ」ということで開催をしております。

昨年度、募集をする中で参加団体が多くて、午前・午後開催するような状況がありましたので、それを踏まえた計画ということになっておりますので、また資料をご覧くださいながら、関係する皆さんにご案内いただければありがたいと思います。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

（５）文化財保護活用課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続けて（5）番、「文化財保護活用課関係報告事項」。

宮下館長、お願いします。

◎文化財保護活用課長兼考古学博物館長（宮下利彦） 別紙でお配りをしておりますチラシですが、黒田大明神原B遺跡発掘調査現地見学会をご覧いただきたいと思います。

来週金曜日、23日秋分の日となりますけれども、今年度進めておりましたフルーツライン、土曾川大橋上郷側の発掘調査の成果の説明、現場を見ていただく見学会を開催します。

当市の古代の文化や歴史を解き明かす、考古の世界に触れていただく、関心を持っていただく機会になっていただければと思っています。よろしくをお願いします。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

（6）公民館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして、「公民館関係報告事項」。

秦野副館長。

◎市公民館副館長（秦野高彦） 公民館からは、別紙の第46回、飯田市民大学講座についてご報告をさせていただきます。

今回、46回目になります飯田市民大学講座でございますけれども、地道な人々の暮らしや文化、芸能、自然などをテーマとして取り上げて郷土を学ぶ学習講座ということになっておりますけれども、今年のテーマ、ここに書かれているテーマの中に持続可能な地域に向かってということを考えております。全ての講師の皆さんが、この地域のこと、非常に深くご存知の方でございまして、専門的な知見でこの講座を彩るという形になっております。

ぜひお時間ございましたらご参加いただきまして、ご聴講をいただければと思います。

よろしく願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

（7）文化会館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして「文化会館関係報告事項」。

下井館長。

◎文化会館館長（下井善彦） それでは何点かお願いします。

まず、チラシをお手元にお配りしましたけれども、大きいのと小さいのがございますが、

「わたちゃんダンボールししまい」ワークショップと人形劇定期公演ということで、文化の秋ですのでこういったもののご案内をいたしました。

それから秋というと伊那谷文化芸術祭が 11 月に予定をされております。毎週の日曜日ということになりますけれども、今現在、そのプログラムの詰めをやっているところでございます。

それから、ここからちょっと資料がなくて恐縮なんですけれども、AVIAMA、人形劇の友好都市国際協会の総会が 8 月 26・27 日と韓国の春川でございました。飯田市長は、日程の関係もありましたので Zoom での参加ということになりましたけれども、私のほうは春川に行って、国際会議ということもありますけれども、現場の様子を見てきたということなんです。

これは春川につきましては、元々いい人形劇フェスタが、東アジア三大人形劇祭の友好提携というものを結んでおりまして、春川と台湾の雲林、それと飯田ということで、この 3 つで結んでいるというそういう関係もありまして、非常に大事にしているということと、2018 年には AVIAMA の総会がこの飯田でありましたけれども、そのときにこの 2 つの都市を飯田市がお誘いをして、その AVIAMA の会員になっていただいたりと、こういう経緯もありますので、現場に行っているいろいろ見てきました。

それから、Zoom で会議に市長が参加したんですが、そのときに今、シャルルヴィル・メジエールから飯田に人事交流ということで来ておりますダコダ・ミドウさんという女性の方がいらっしゃいますけど、この方にフランス語の通訳に入っていたりもしております。このダコタさんについては、龍江小学校がシャルルヴィル・メジエール市の小学校といろいろな連携をしたいということで、今、交流をしたいということで始まっておりますけど、その橋渡しもさせていただいておるということでございます。

続いてもう 1 点ですけども、新文化会館の検討の状況ということなんです。

これは前回このニュースレターをお配りしました。その後ですけれども、来週になりますけれども、9 月 22 日に整備検討委員会の第 3 回目の会議を予定しておりますので、そこでは基本理念を少し形のあるものにしていきたいという、そういう機会を予定しております。

それから、高校生ワークショップが 9 月 4 日に行われました。

これは一般の方を含め 20 名くらいの方に参加をいただきまして、新しい文化会館ができるんだけど、どういうふうにご利用しましょうか、どういうことをやりたいかということでお話をさせていただいたということで、今後はまた楽しみな会になっていくと思っております。

おります。

それからもう1点なのですが、9月の補正予算ですけれども、これに新文化会館の関係で候補地の選定に係る基礎的調査というのを委託料として計上いたしております。まだ議会のほうは続いておりますので、審議中でありますので、決定ではありませんけれども。今後の文化会館の場所をどうするかについて、今、お話しした整備検討委員会では基本的には場所とは切り離して、どういうものかいいかについてをきちっと考えていただくという、そういう議論をしていただいております。場所のほうは飯田市が責任を持ってどういうところがいいかというのを決めていくということで、まだ実際に決めるのはずっと先だと思いますけれども、議論を進めておると、こういう状況でございます。

説明は以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

（8）図書館関係報告事業

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして、「図書館関係報告事項」。

瀧本館長。

◎中央図書館長（瀧本明子） 図書館からはございません。

（9）美術博物館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 9番目にまいります。「美術博物館関係報告事項」。

牧内副館長お願いします。

◎美術博物館副館長兼歴史研究所副所長（牧内 功） はい、それではお配りしたチラシをご覧くださいと思います。

「城下町飯田と飯田藩」のチラシでございますが、今年度は堀 親昌公が飯田に藩主として入って350年、また飯田藩の基礎を築いた京極高知公の没後400年という節目の年に当たることから、9月23日から11月6日まで特別展を開催し、城下町飯田の成り立ちから飯田大火後の復興までの約400年の歩みを紹介させていただきます。

見どころでございますが、先日、長野県宝に指定されました信濃国飯田城絵図でございますが、このチラシでは背景のような形で映っておりますけれども、縦約2.5mで横が約3mの大きな絵図ですけれども、長野県宝に指定されてからは初めての公開になると、そのようなものでございます。

あとチラシの裏面に写真があります「浦千鳥」という青磁の香炉につきましても、堀公

が将軍家から拝領したという、そういう一品でございますので、またご覧いただければと思います。

特別展に関連しまして、学習として深めていただくということを目的に、10月15日には歴史研究所の吉田所長を講師に特別講演会を開きまして、11月3日には今回の「城下町飯田と飯田藩」に関しまして、3名の方にそれぞれの研究成果から講演をいただくようにしております。

また、今回の特別展示にあわせ、城下町サポーターを募集しております、5月から応募された20名の方にガイドとしての養成講座を受講してきていただいております。10月2日には見学会を開催するわけですが、この城下町サポーターの皆さんの案内で美術博物館周辺の旧飯田城の遺構を巡っていただきます。

また、11月3日と6日には展示解説としまして、城下町サポーターの方々に特別展の展示品の説明をしてもらう、そのような機会を考えております。

10月「びはくにゅーす」ですけれども、今、お話をさせていただきました特別展の関連の講座以外の春草講座、自然講座、考古博物館のぎやまん工房などを掲載させていただきましたので、またご覧いただきたいと思います。

また本日、特別展の招待券をお配りしましたので、ぜひ期間中に足を運んでいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

（10）歴史研究所関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続いて10番、「歴史研究所関係報告事項」。

牧内副所長。

◎美術博物館副館長兼歴史研究所副所長（牧内 功） 先ほどの上河内委員さんからもお話ありましたけれども、先週の9月10日・11日の2日間、地域史研究集会を開催いたしました。

今回も新型コロナの感染対策としまして、オンラインの開催をメインとしましたけれども、オンラインでの参加者は入れ替わり、立ち替わりなので、こちらで確認できたのは、104名の方に参加をいただいております。また、オンラインでは参加できない方を対象にサテライト会場ということで、こちらの会議室を会場にしまして、ご高齢の方が多かったですけれども、2日間で28名の方がいらしております。

また、満州ゼミであるとか満州移民を考える会の皆さんが、地元の方に声かけをしてい

ただきまして、豊丘村の公民館を会場に、同じようにサテライトのような形で用意をしていただきまして、2日間で30名の方にご視聴いただきました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

これまで報告事項に関わってご質問ご意見がありましたらお願いいたします。

北澤職務代理、お願いします。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 全部で3点あるのですが、1つは17ページに関わってのことで質問します。

17ページのところで特別支援教育に関わる説明をいただいた中で、1番の2つ目のポツの部分です。特別支援学級に在籍をしながら、ほとんど普段の生活を普通学級で授業を受けているようなケースは特に中学校で多いのではないかと思うのですが、そこに関わって、国からの通知では全体の半分以上、普通学級のほうで生活しているような状況は望ましくないと。改善すべきだといった方向のことが出ていたような気がするのですが、飯田市の場合では、ここには「一定数いる」と書かれていますが、おおよそ把握されているそのお子さんたちについて、把握し直したと思うのですが、おおよそどれくらいいて、飯田市としてはそういうお子さんに対してどんな対応を学校へお願いしている状況なのでしょうか。

○教育長（熊谷邦千加） はい、麦島係長、お願いします。

◎教育支援係長（麦島 隆） ありがとうございます。

正確な数はあれですけれども、調査の段階で言えば半数以上、中学の場合、通常学級での生活を主にしているような状況が見られます。ただ、実際聞いてみますと、時と場合にもよりますので、一概にそのような状況ではないのかなというふうには思っております。

国は、半数以上をとというような目安、基準みたいなことを言っておりますけれども、先ほど申しましたように目安というよりも、もし通常学級で生活するのであれば、特性のある子ですので、どのような配慮のもとで生活しているのかというようなことを大事にしたりと、これはインクルーシブの考えになります。

もう1つは、特別支援学級に在籍をしているお子さんと考えますと、特性がありますので、その特性に応じた自立活動がちゃんとやれた上でその通常学級で生活しているのかというところが大事になってきて、それなしにしてただ単に通常学級で生活をするのはいかがなものかというような考えで、学校訪問なり学校からの問い合わせについては答えるような状況です。

ですので、時間数をこうやりなさいというよりも、その子に応じた適切な指導、支援をぜひ考えて対応いただきたいというところが基本になってくるかなというふうに考えております。

以上です。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 要するに、ただ国から示された基準に従って四角四面に時間数がこうだから、通常学級のほうに行くべきだといったふうにはしない。その子の特性やご家庭のご要望とか状況に応じて、柔軟に対応していくということですね。

◎教育支援係長（麦島 隆） はい。

◇教育長職務代理者（北澤正光） はい、ありがとうございます。

それから2点目は、32 ページに関わること。外国語のほうにも関わるし、専門幹が代理で発表してくださったICTのほうにも関わるのですけれど、デジタル教科書のことです。

要するにこれは、タブレット端末を返還してしまえば当然デジタル教科書は子どもの手元にはなくなるという理解でいいですね。

タブレット端末が使えている間は、デジタル教科書がインストールされていて、自分のものとして使えるけれど、卒業に至ってタブレット端末を返還してしまうと、当然教科書も失うという理解で考えると、今朝の信毎にもその続きとして記事が出ていたのですが、国は紙とデジタル教科書と両方を配る予定でいる。文科省としては予算が通ればそうする方向も考えているという。今は過渡期で、デジタル教科書も時代の要請で必要なものだと思うのですけれど、偶然今朝、信毎の新聞の見出しのところも、紙のほうが優れている部分もあるかみたいな見出しだったと思うのですけれど、しばらく前のこれも新聞記事ですが、広島大学の大学院の研究でいくと、読解力のような文章に没入して自分の考えを練っていくというようなことには、小学生を対象に調査をした結果では、紙のほうが優れている。優れている可能性があるという程度のちょっと曖昧な結論づけでしたけれど、数字上は紙のほうが優れているという調査結果が載っていた。

考えてみるに教科によって特性がある。英語みたいに繰り返しを何回もやって習得していくとか、音声を聞いて習得していくといった教科の場合とか、数学の図形みたいに目の前で図形が動いたり範囲が示されたりして、目に見えることでとっても学びやすくなるというような教科ではデジタル教科書はとっても優れていると思う。逆に1つの言葉にこだわって、そのことでじっくりと考えてみるとか、もう1回同じところを自分のスピードで見直しながら考えるといったようなときには、紙のほうが特性として優れているとかというようなことが考えられるので、この辺のところはこれから大事なポイントになってくる部

分だと思います。ただただデジタル教科書を薦めましょうでもいけないと思うし、逆に使えなくても困るし。その辺を慎重に大事に見ていく必要があると思いました。

それでそのデジタル教科書をより有効に使うためには、もう1つの質問ですけれど、41ページに関わります。デジタル教科書をより有効に使うには、結局タブレット端末の家への持ち帰りを当たり前のように認めていくという流れがないと、デジタル教科書のフル活用はできないと思うんですが、そういうふうに入ったとき、要するに情報モラルというか、メディアリテラシーのほうを追いついていないと、日常的に持ち帰る話になったとき、なかなかそのところで難しい問題が起こるのではないかと思います。そうするとこの上半期、例えば市内でちょっと間違った使い方してしまって、何か把握されている件数がどれくらいあって、どんな状況をご指導されたのかという辺りは分かっているのでしょうか。差し支えない範囲で教えていただきたいと思います。

○教育長（熊谷邦千加） 今井専門幹。

◎学校教育専門幹（今井栄浩） 正確な件数は今持ち合わせていないのですが、4～5件ありました。小学校六年のときに、授業中に不適切なチャット、書き込み等を行っていて、それが中学へ行って中学の先生が生徒の端末をセットアップしていたら分かったっていうのが4月にありました。

あとは、本来フィルターがかかっているはずなんですが、やっぱり抜け道があり、子どもたちがいろいろなチャレンジをしてくれている中で、不適切なサイトを見れていたというような、不適切サイトが利用できていたというのが3件か4件くらいありました。

それらは全て状況や原因をきちんと確認をして、それに対する手立てもきちんと行っています。それから、その上で学校に状況をお話をし、保護者、本人も呼んで学校で指導をし、確認をしていただいた上で、パスワードも新しくして本人に与え使うという形で、学校でしっかり指導をしていただいた上で活用をしていくという形で対応しています。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） よろしいですか。

はい、そのほかありますでしょうか。

今の職務代理からの質問に関わらないものでも結構です。

上河内委員さん、お願いします。

◇教育委員（上河内陽子） それでは質問なんですが、特別支援教育の件で本当にいろいろ細かく見ていただいているなあと思ったんですけれども、一番最初の9ページのところで、本当に入りの部分の前提とするようなところの確認なんですけれども、飯田市では特別支援

学級の在籍比が多いというようなことがあるんですが、これは飯田市ではその特別支援について手厚いから多いというふうに考えればいいですかという質問です。

それを必要とする子どもたちが、全国よりも多いとかっていう意味ではなくて、きっと手厚いから多いのかなあというふうに考えたのですが、それで正しいでしょうか。

○教育長（熊谷邦千加） はい、麦島係長。

◎教育支援係長（麦島 隆） よろしく申し上げます。

就学判断に関わる内容だと思いますけれども、飯田市就学相談委員会で、学校、保護者の希望に応じて相談を受け、本当に慎重に判断をしている状況があるかなというふうに思います。その子に応じた学びの場は、どこなのかということについて、しっかりと議論した上で判断をしておりますので、今、委員のおっしゃいましたように、飯田市は手厚い特別支援の状況をつくっているというふうに思っております。

その結果、在籍比率が高くなっているのかと思うんですけれども、特に自情障学級の在籍比がちょっと高くてこのような状況になっているということで、自情障のお子さんは割かしパニックになったりだとか、そういうことが多いですので、自情障学級の中で落ち着いた生活ができるような自立活動をした上で、場合によっては学びの場の見直し、通常学級に戻るといことも想定されるかなあと思います。そのときにやっぱりインクルーシブという視点も大事になってくると思うので、私としましては特別支援教育についてとても大事に考えている飯田市の結果というふうに捉えております。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

◇教育委員（上河内陽子） はい、ありがとうございます。

私も本当に同感で、インクルーシブってみんな一緒ってというようなこと、とても大事だと思うので、そうでないと本当に先生方の負担が大変なんではないかなあというふうに感じました。なので、手厚くしていただくのと同時に、先生方に無理のないような環境の中で子どもたちが生き生きと過ごせるようになるといいなというふうに願っております。

ありがとうございます。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

そのほかいかがでしょうか。

はい、野澤委員さん。

◇教育委員（野澤稔弘） ちょっと感想のようなものなんですけど。

英語の教育だとかICTの教育だとかってということで報告を受けましたが、つくづく今

の子どもたちは大変だなあと考えながら聞いていました。本当に必要なのかと。

実は県教委のほうから、「高校の再編をするに当たって産業界の意見を聞きたい」ということで連絡があって、それもなんで産業界なのかなと思って考えてしまっているんですけど、経済のために子どもを育てるわけじゃないので、一人の人間を個としての人を育てるっていうか、そういうことなんじゃないかなあと思うんですけど、なんで産業界の意見を必要としているのか全く理解できないんですよ。

そう思って見たときに、私も教育委員になりたてのときに、「英語やるんだったら中国語やったら」みたいなこと言っていたんですけど、でも実際、そんなことは後でもいいのかなってつくづく今、感じていまして、もっと人としてというか、人間としてというか、なんかもっと体験しなきゃならないことが子どものうちってたくさんあるような気がするんですけど、それを抜かして英語やってパソコン使ってってなんかかわいそうだなあって、今日実は思っていました。

そんなことやるよりなんかその辺の河原で遊ばせてやったほうが、よほど人としてはいい経験、豊かな感触というか、そういうものが味わえるんじゃないかなというふうに思うんですけど、なんでそうってしまったんだろうかと思うと、自分たちもそういう業界にいるもんですから、こういうパソコンぐらい使えるようになってくれとか、英語ぐらい今どきは話せなきゃ駄目だとか、そういうことが伝わってこういうふうになってしまったんだろうと思うんですけど、もっと違う側面というかあるんじゃないかなってつくづく今、ちょっと感情としてすごく混乱している、そういう状況です。

なんかこの立場になっていろいろ話を伺えば何うほど、子どもたちがかわいそうだなって実は思っているということが実感でございます。

すみません。

○教育長（熊谷邦千加） いえいえ、ありがとうございます。

何かありますか、今井専門幹。

◎学校教育専門幹（今井栄浩） 今の野澤委員の、あれをやりなさい、こういうことをやりなさいというふうな形で、内容の話になってしまっているの、その一番の上にある目的を見失わないように話しています。今までは、要するに良質な労働者を育てるためにある一定水準のみんなが同じことができるようになる、そういう教育が日本の中でまず成功していたんです。でも、それはもう明らかに行き詰まりになって、これからは正解のない解を求められる。そういうときに、じゃあどういうふうに経験をしていったらいいのかな、いろいろな考えを持っている友達といろいろ情報交換しながら、自分の考えをより深めてい

く。そして、お互いに正解はないけど、納得できるような解答を求めていく。そういう教育が必要なんですってということで、我々は取り組んでいかなければいけないと思っています。

そうしたときに、タブレットを使って行う学習が有効になります。その情報交換で「僕はこのように考えました」ということを、今までは先生が全て「じゃあ、あなたはこういうふうに考えたんですか」、「あなたはこういうふうに考えたんですか」という形で吸い上げて、それを板書して、「それでは、考えてみましょう」と行っていたんですけど、ICTを使えば、子どもたちは自分で考えていろいろやったときに、それをもう先生が解説しなくても、みんなで情報がすぐ「あの子はこういうふうに考えているのか」、「あの子は僕と同じように考えている」ということが分かる。タブレットの中で、その中でやり取りができるんです。「でも、その考えは違うんじゃないの」とか、そういったことができる学習が組める。そうすることで、子どもたちにこれから必要な力を身に付けていくことができると考えています。

それから、デジタル教科書もかなり非常にできが良くなってきているという大変な言い方なんですけど、今までの先生方が使っているデジタル教科書は、極端な言い方をすると、教科書をPDFにしたようなデジタル教科書だったんです。それが自分で学習ができるようなデジタル教科書に変わってきました。要するに、自分がここを学習したいって思えば、そこが自分で掘り下げて学習できるようなデジタル教科書に変わってきている。だから自分のニーズによって学習していけるような今の学習者用デジタル教科書の利用は、個別最適な学習につながります。学習者用デジタル教科書を使うことによって自分の学習ができるようになります。

目指すところは、やっぱり子どもに英語の力をつけるとか、ICTができるようになるとかではなくて、これからの時代を生きていくために、子どもが自分で考えて何がいいのかな、どういうことが、やっぱり人と意見交換をしながらどうやってこれからの時代を切り開いていけばいいのかなっていう力を持ってもらうことであり、それを育てていくことです。

私もいろんな教え方というものを勉強してきたような気がするんですが、何が必要、だからそれをしなければいけないかという何の部分がすごく弱かったなと感じています。それはやはり現場の中で一番今、特に長野県の教師が弱い部分じゃないかな。先生方は真面目なので、やれと言われれば一生懸命やるんですけど、やれと言われて本当に一生懸命やっているだけで、子どもと同じ状態ではないかと感じられます。そうでなくて、何が必要だから、何を目指しているからこれをやっていく、これが必要なんだっていうことを

やっぱり現場の教師がしっかり理解をして、そのためにICT教育でありデジタル教科書でありというふうに取り組んでいく。それをやるのが目的じゃなくて、本来どういう子どもたちを育てていかなければいけないか、これからの時代に向けて何が必要なのかということ議論しながら、教育というものをつくりあげていく、その視点が一番になるかなというふうなことを思っています。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） これはなかなか本当に野澤委員さんがおっしゃるところがあって、今、GDPも韓国に抜かれ、そういうOECDの学力検査でどうかというふうに世界基準に対して先進国からすると日本がもう地位を保てない状況がきて、そのことに対する焦りもあるかなあなんて思ったりもするんですけど。

そうした国々の教育と日本の教育が比較して、中央教育審議会等が、これからの教育がどうあるべきかっていろいろ言うんですが、でも本質的には発達段階に応じて野澤委員がおっしゃるように、やっぱり遊ぶべき年齢に遊ばないと、これはもう人間として一番大事な根本的な部分が欠落してしまうかなあってということも感じますし、飯田市教育委員会としてもキャリア教育をもう少しちゃんとやりましょうよっていう部分も、やはりその部分という意味合いがうんとあるんじゃないかなと。体験的に学ぶ、地域の中で学ぶ、そういったことを大事に考えていくっていうことを、やっぱりICTが入ってきても、英語教育が低年齢化しても、その部分はやっぱり大事にしていかなければいけないのかなっていうふうには思うんですけども。

◇教育委員（野澤稔弘） こう英語の教育が入ってきたことで、何か削られた教科があるんですか。

○教育長（熊谷邦千加） あります。やはり昔に比べると大きく違うのは、例えば学級でやる特別活動の時間、音楽、それから美術、技術家庭科、こういった技能教科の時間が削られています。そのほかに中学校の国語が昔5時間ほどでしたけど、今4時間です。その代わり総合的な学習の時間が増えたりとかですね、英語も外国語活動の時間が増えたので、それは外国語活動の場合は授業数が増えている。他の教科を削ったり、小学校の場合は授業数が増えているね。

◎学校教育専門幹（今井栄浩） そうですね、1時間増えています。

ただ、一時期、ゆとり教育といわれたときに、総合の時間がうんと増えたんですけど、その枠を教科のほうに今は譲って教科の学習を増やしています。今、教育長さんが言われたように、実技教科は、技術・家庭科とか、そういったものは以前フルでやってたときよ

りは少なくなっています。

○教育長（熊谷邦千加） 土曜日がなくなったというのも影響してますけど。

◇教育長職務代理人（北澤正光） その一番、なんかいろんな意味で大きく変わってきたのは土曜日の授業がなくなったこともあるのですが、学びの中でいくと今、教育長さんも言われたいわゆる特別活動というか、そういう部分がうんと圧縮された。かつてのクラスマッチとか、写生大会とか、まさに野澤委員さんが言う弁当をもって1日外へ行って秋の景色を描く。終日真面目に描く子もいるけど、最後の1時間くらいで一応やるべきことはやるが、その途中は秋を満喫するみたいなことも含めて、遠足とか登山とかといったようなことも相当見直して、どちらかというとな事故がないように安全なほうへ簡単なほうへという流れになってしまったことは確かにあるかと思います。

クラスマッチなど、本当に子どもたちがクラスで団結して、クラスでまとまってみんなで頑張ろうとするようなことがほとんど今はない。あの世代の子たちが血湧き肉躍るようなこと、本当に周りを忘れて夢中になるという時間が、子どもたちにはどれくらいあるのか、正直言ってちょっと寂しいなという思いはありますね。

◇教育委員（野澤稔弘） 私が小学校のときですけど、五年生・六年生がクラス一緒だったんです。すごい仲良くて、クラスだけで遠足行こうって企画するんですね。今思えば先生大変だったんだろうなあとと思うんですけど、でも年に2回くらいそのクラスだけで土曜日に遠足に行くんですよ。クラスみんなで。

そうやって先生が本当に大変だったんだろうと今、思うんですけど、でもそうやってみんな企画して、何時に集まって、どこ行って、何見て、あれしてこれして、なんて言ってやってたの覚えているんですけど、きっとそういうことって今の子はないんでしょうね。

◇教育長職務代理人（北澤正光） クラス独自で誕生会をやるとか、学級レクレーションの時間をクラス独自で考えて、学校のルールに則ってちゃんと手続きをして、場所を借りて、そこでクラスみんな活動するとか、そういう中に実はいろんな学びの要素が、当事者は学びなんて思っていないが、要素がいっぱい詰まっている。ことごとくそういう根本的な部分が、学校教育の中からかなりなくなってしまっていて、結局教科として成立するようなものの中での学びというふうに限定されてしまっているようなところがすごく窮屈になったり寂しくなったり、子どもたちの自由度を奪っているのではないかということを思うのですが、なかなか苦しいところですね。

○教育長（熊谷邦千加） そういう中でも、そういうふう担任の先生が独自のものをやりたいて思っている人もまだいると思いますが、きっとその先生も嫌々やってたんじゃなくて

むしろ喜んで子育てしているんですっていうことをやってくださる先生だったんじゃないかと思います。

はい、ありがとうございました。

この議論もまたとても大事な議論です。またこれからも事に触れ、ご意見いただければなあと思います。

そのほかいかがでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長（熊谷邦千加） よろしいですかね。はい、ありがとうございました。

(11) 今後の日程について

○教育長（熊谷邦千加） それでは（11）番の今後の日程について。

櫻井総務係長、お願いします。

◎学校教育課長補佐兼総務係長（櫻井英人） 3ページをお願いします。

学校訪問を全て書きましたのでたくさんありますが、それ以外のところをお願いいたします。

9月26日の飯田市校長会でございますが、北澤教育長職務代理者の出席をお願いします。

10月18日が次回10月の教育委員会定例会です。

10月21日に長野県市町村教育委員会研修総会がオンラインで行われます。

10月28日は飯田市教頭会で、これも北澤教育長職務代理者の出席をお願いします。

11月2日でございますが、飯伊市町村教育委員会連絡協議会の秋季研修会がございます。今年は平谷村が担当になっております。まだ通知が来ていませんので、詳細は次回ご連絡したいと思います。

日程は以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、11月2日、平谷村の研修会は、今のところ、この飯田下伊那に大学を呼ぼうとした宮澤芳重さんについて法政大学の高柳先生がオンラインで講演する予定であります。

はい、ありがとうございました。

本日予定された議案等はこれで全てとなりますけれども、ご発言等ありますか。

三浦委員さん。

◇教育委員（三浦弥生） 先ほど、委員の報告事項ということで、帯同についての報告させていただきました。

1点だけ言い忘れたことがありました。遠山中学校のところでの面談のときの話になりますけれども、「図書館司書の先生がいませんので」という話をいただきました。本当、総合教育会議においても読解力であったり読書であったりという話が出てきますし、やはり議論の中ではそういった図書の専門の先生がいらっしゃるところが大事なところなのかっていうふうにお話を聞いてきております。

追加でお願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

このことについてはいいですか。

◇教育委員（三浦弥生） 週に1日だけでもというお話でした。

○教育長（熊谷邦千加） しっかりと検討させていただきたいと思います。

ありがとうございました。

日程第10 閉会

○教育長（熊谷邦千加） それでは日程第10、閉会。

以上をもちまして、9月定例会を終了とさせていただきます。

ありがとうございました。

閉会 午後4時45分